



遺贈寄附の
たより
～兵庫県～

兵庫県への遺贈をお考えの方は下記にご相談ください。
(兵庫県委託：レディーフォー遺贈寄付サポート窓口)

お気軽にご連絡ください

通話料
無料電話

☎ 0120-948-313

受付時間：平日10時～17時（年末年始を除く）



ホームページは
こちらからも
ご覧いただけます

<https://izo.readyfor.jp/>



ホームページはこちらから

レディーフォー 遺贈寄附



【兵庫県財務部財政課】 TEL:078-362-9061 Email:shikinzaisan@pref.hyogo.lg.jp





遺贈寄附を検討される方が増えています

いま苦しんでいる人のために、
 私たちの未来のために、活動する人々があります。
 また、そんな人々の活動をもっと応援したいと願う人々の思いがあります。

その思いにお応えすべく、
 兵庫県は、皆様からのご相談をお待ちしています。



遺贈寄附とは？

一般的に遺贈とは、遺言書を作成し、財産の全部または一部を特定の個人あるいは団体に無償で譲渡(贈与)することです。

相続の発生後、遺言を執行することで寄附がなされます。

遺贈寄附の種類について、下記ページでくわしくご説明しております。

- 遺言による寄附 …… P8～11
(ご本人が寄附する場合)
- 相続財産からの寄附 …… P12
(相続人が寄附する場合)

兵庫県に遺贈寄附いただいた場合、
 以下のようなものが生前に届きます(ご希望の場合)

- ・ 感謝状
- ・ 事業報告書の送付

目次

- P4-5 — 遺贈寄附の相談窓口について
- P6-7 — 兵庫県財政課インタビュー
～遺贈寄附を通じて兵庫県をより良くするための参加者を増やしたい～
- P8-10 — ふるさとひょうご寄附金 ～寄附金の使い道と活用事例～
- P11 — 寄附者様のお声

生きがい を見つけない

寄附を受ける側の原動力となるだけでなく、寄附をする側にとっても、自分らしい人生を生きる活力となります。

想いを 実現したい

遺贈寄附は、亡くなった後も社会に役立てることで、あなたの想いを実現することができます。

自分で 選択したい

遺贈を行うことで、法定相続分に関わらず、自分の財産を役立ててほしい分野に自分の意思でお金をのこすことができます。

生きた証 をのこしたい

遺贈寄附はその想いととも寄附先団体や身の回りの方々の記憶に残り、この世に生きた証をのこすことができます。

ライフスタイルや価値観、家族構成のカタチなど、何もかもが多様化している今、自分らしく財産の一部を社会に役立てたいと思う方が増えています。

「自分の財産、最期はどうすれば良いのだろう」といった疑問をお持ちでしたら、ぜひ一度ご検討・ご相談ください。



兵庫県は、みなさまにとって 遺贈寄附がより身近なものになるよう 体制を強化しています。

士業団体や金融機関と連携して遺贈寄附啓発に取り組むほか、
県民のみなさま(県外の方もご利用可能です)は、

兵庫県
ホームページ



<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk21/kikaku-somu/izoukifu.html>

- 経験豊富な専門家に何度でも無料で終活・遺贈寄附(含む生前寄附)についてご相談いただけます。
- 不動産や包括遺贈、その他現物の寄附についてもご相談いただけます。
※ 受入にあたってはいくつかの条件があります。

右ページに詳細を記載しているので、ぜひお気軽に相談窓口をご活用ください。
なお、この窓口の運営については、兵庫県と連携協定を締結している
READYFOR株式会社(以下、概要記載)にお願いしています。

READYFOR株式会社について(専用相談窓口の運営会社)

READYFOR(レディーフォー)株式会社は、
2011年3月に日本初のクラウドファンディングの
サービスを開始しました。現在は日本最大級の
クラウドファンディングサービスへと成長しています。



会社概要 Company

社名	READYFOR株式会社
設立	2014年7月
代表者	米良はるか
資本金	1億円
従業員数	180名(2023年11月時点)
住所	〒102-0082 東京都千代田区 一番町8住友不動産一番町ビル7階

加盟団体	一般社団法人日本クラウドファンディング協会 一般社団法人インパクトスタートアップ協会
主な取引先	法隆寺、鹿島アントラーズ、公益社団法人日本将棋連盟、京都大学 医学部附属病院、筑波大学、大阪大学、九州大学、三井住友銀行、 三菱UFJ信託銀行、静岡銀行、広島県、京都府 など



遺贈寄附相談窓口の特長



多くの団体から適切な
寄附先をご選択頂けます

当窓口は、お客様の「どこに寄附したらいい
い分からない」といったお悩みに、ご意向に
寄り添いながら適切な寄附先の団体
のご提案をさせて頂いております。



無料でお気軽
にご相談いただけます

当窓口へのご相談は、
何度でも無料で
ご利用いただけます。



寄附金額は少額からでも
ご相談いただけます

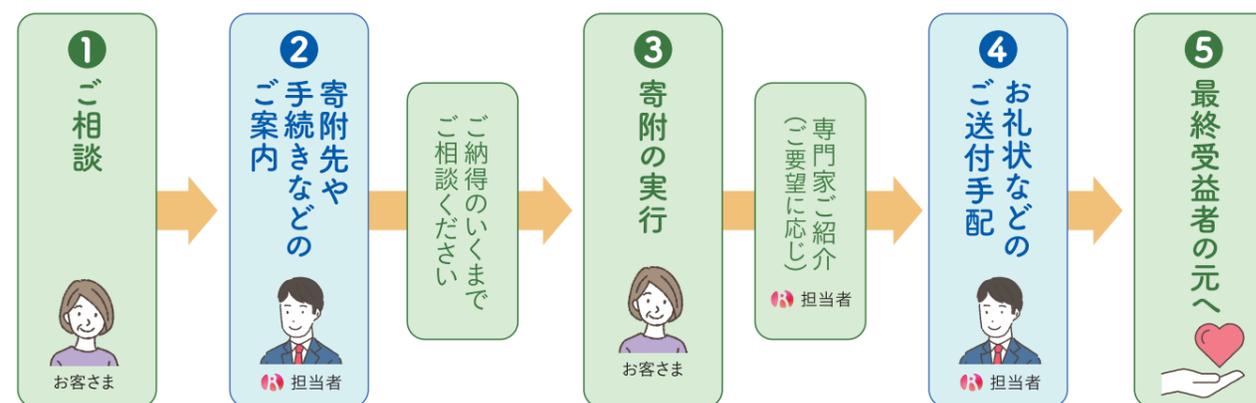
当窓口でご相談可能な寄附の金額に
下限はございません。お客さまおよび
ご家族の将来の生活に支障が出ない
形でのご提案をさせていただきます。



遺言書による寄附のみならず、
相続財産からの寄附や生前寄附についても
ご相談いただけます

当窓口は、亡くなられたご家族の想いに沿った相続財産
からの寄附や、生前のうちに寄附を始められたい方
についても、税金面等含めて適切な寄附先の団体や
スケジュール感等ご提案させていただきます。

ご相談から寄附の流れ



遺贈寄附相談窓口(遺贈寄付コンサルタント)の紹介



北山 陽一

大手信託銀行で遺言信託の受託手続き
ならびに受託審査部門に携わるなど
相続・遺言に関して20年近くの相談
経験あり。1級ファイナンシャル・プラン
ニング技能士、宅地建物取引士



早乙女 裕輔

大手銀行・大手信託銀行にて、相続・遺
言などの資産承継業務や資産運用業
務に従事。1級ファイナンシャル・プラン
ニング技能士、宅地建物取引士



齋藤 英里奈

大手信託銀行、IFA会社にて、資産運用
や相続・遺言などの資産相談業務に従
事。1級ファイナンシャル・プランニング
技能士、宅地建物取引士試験合格者



西田 このみ

大手銀行・大手証券会社にて、個人の
資産運用・相続対策などのコンサル
ティング営業に従事。1級ファイナン
シャル・プランニング技能士。

遺贈寄附を通じて、 兵庫県をより良くするための 参加者を増やしたい。



© 兵庫県2007

遺贈寄附を推進する兵庫県庁財務部財政課の担当者に、
昨今の状況やこれからの兵庫県についてお話しいただきました。

Q. 先日「遺贈寄附コンソーシアム」を発表されていますが、改めて兵庫県全体で遺贈寄附の取組を行おうと思われた背景を教えてください。

生涯未婚率の上昇や家族形態の変化といった社会的変化に加え、自筆証書遺言の保管制度も始まり、終活や遺言書、遺贈寄附といったニーズが高まっている印象を受けていました。実際に、遺贈寄附のお問い合わせをいただくことがあり、県内でも関心の高まりを感じています。また、1995年の阪神・淡路大震災の影響で兵庫県はいまだ約2,000億円の負債を抱えており、自らファンドレイジング(資金調達)に取り組んでいくことも必要と考えています。

我々としては、寄附金だけでなく、そのような活動を通じて兵庫県の課題やその背景を理解くださり、兵庫県をより良くするために参画して下さる方が少しでも増えてくださることが一番の願いです。

Q. 遺贈寄附が兵庫県の施策に参画するきっかけになればとても素敵ですね。これまでの実際のお問い合わせではどのような声が多いのでしょうか？



直近ご相談をいただいたのは女性の方で、医療機関の人材確保に財産を役立ててほしいというお声をいただきました。医療関係者の処遇をよくしてほしいというご要望もいただいております。今後とも寄り添って対応していきたいと思っています。また、ここ数年では学校教育にご寄附いただく方も多いです。出身校はもちろん、兵庫県の学校教育に想いを残して下さる方も多いですね。

Q. なるほど、様々な想いが兵庫県に託されているんですね。では、兵庫県の魅力を教えてください。

やはり、県土がとても広いのが特徴です。北は日本海、南は瀬戸内海に面している唯一の県であり、いわゆる旧五国(摂津・播磨・但馬・丹波・淡路)から兵庫県は成り立っています。したがって、それぞれの地域で自然環境や風土が異なっており、多様性に富んだ県であるとい

うことが一番の魅力ではないでしょうか。各地域の特徴や異なる観光資源をしっかりと県内外に伝えて行けたらいいなと思っています。

Q. 各地域で昔からの風土が残っているということですね。次に、兵庫県で遺贈寄附を受け入れた場合の活用方法を教えてください。

兵庫県としては、①地域の価値向上、②安全・安心なまちづくりに特に力を入れていきたいと考えています。具体的には、産業振興や環境、教育、地域福祉、防災の分野に活用させていただきたいです。いずれも兵庫県の子供たちの未来にもつながるものと思っています。2022年に「ひょうごビジョン2050」も策定していますので、良ければご覧ください(<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk07/vision/hyogo-vision2050.html>)。

Q. 最後に、県民のみなさまへのメッセージをお願いします。

「兵庫県の未来づくりを応援してください。」本当にこの一言に尽きます。遺贈寄附においては、やはり遺言書の作成等にハードルを感じる方がいるのも事実です。兵庫県では、「遺贈寄附コンソーシアム」を通じて各専門家と連携してみなさまの想いをしっかり受け止め、形にできるよう取り組んでいきますので、安心してご相談いただければと思います。

兵庫県に寄附すると、寄附金はどのように使われるのでしょうか？

皆さまからいただいた寄附金は、寄附者の方のご意向に沿って、
下記のような使途に充当させていただくこととしています。

- 1 保健福祉の推進: 子どもの成長支援、課題を抱える妊産婦の自立支援、障害者支援、動物愛護、医療体制の確保等の事業に充当します。
- 2 SDGs推進: 環境保全、脱炭素社会の推進等の事業に充当します。
- 3 教育環境充実: 県立学校や県立大学などの教育環境の充実等の事業に充当します。
- 4 芸術文化・スポーツ振興: 県内の芸術文化施設・社会教育施設の充実強化、スポーツ振興等の事業に充当します。
- 5 産業振興: 県内の地場産業や中小企業支援等の事業に充当します。
- 6 まちづくり応援: 県立都市公園の整備や民間のまちづくり活動の支援等の事業に充当します。
- 7 農林水産業振興: 県内の農林水産事業者支援やこれらの業振興のための取組等の事業に充当します。
- 8 兵庫県におまかせ(使途指定なし)
- 9 その他、寄附者の方のご意向を汲んだ使途の検討

寄附金控除について

寄附金額にあわせて、一定の限度まで、現在お住まいの自治体の住民税の減額など税制上の優遇を受けることができます。税制上の優遇を受けるためには、確定(還付)申告を行ってください。

お問い合わせ先: 所轄税務署

ふるさとひょうご寄附金 ～児童養護～

すべての子どもたちが、自らの将来を考え、夢や希望をもって生活していけるように。

兵庫県庁の児童養護の担当者と、一般社団法人兵庫県児童養護連絡協議会の方に、現在の取組や今後についてお話をいただきました。

Q. まず、現在の取組について教えてください。

現在、ふるさとひょうご寄附金を活用した取組として、「児童養護施設や里親の下で育つ子ども応援プロジェクト」を行っています。具体的には、児童養護施設で暮らす高校生のクラブ活動への金銭的サポートや、就業・大学進学に向けた支援です。クラブ活動については、やはりユニフォームや大会への遠征費等も必要になりますし、大学に進学する場合は塾代も必要になりますので、そういったサポートを行っています。

児童養護施設で暮らす子どもたちの多くは、ニュース等で報道される通り虐待や経済的困窮を背景に入居しており、自分の将来に前向きなイメージが持てない子もいます。そういった子どもたちでも、他の環境で暮らす子どもたちと変わりなく自分の夢を追えるようにするのが我々の役目と考えています。

Q. たしかに卒業後のフォローは重要そうですね。実際に近くで児童や生徒を見られていて、このプロジェクトにはどんな意義があると感じられていますか？

(兵庫県児童養護連絡協議会) 県庁の方が冒頭にお話されていた通り、高校生の部活動は想像以上にお金がかかります。入居者の中に剣道に取り組んでいる子がいますが、防具などを準備するのに活用させていただいており、部活動に思い切り取り組んでもらっています。また、過去には塾代の支援ができず、自主学习もしくは大学生のボランティアをお願いしていたものが、学習塾の支援にも活用できるようになり、進学に向けた新しい可能性も広がってきたように感じています。自分の未来を考えると



という観点では、施設で地元の企業と交流する機会も提供していますが、話を聞きながら一生懸命にメモを取っている様子を見ている

と、子どもたちが将来に希望を持ってもらえているようで良いなと思います。

Q. なるほど、このプロジェクトを通じて少しでも自分の将来を考えるきっかけになれば良いですね。実際にこれまでの寄附者からのお声はどういったものが多いのでしょうか？

児童養護施設というのは昔からあるものですので、寄附者様にとってもなじみが深く、施設を活用することで「子どもたちが子どもらしく、元気で暮らしてほしい」という声をいただくことが多いです。また、寄附者様のご意向を受け、児童養護連絡協議会にて大学の進学費用として年間10名に入学準備金を贈らせていただいています。



最近の課題としては、卒業生への支援でしょうか。18歳になると施設を卒業する決まりですが、卒業後すぐに1人で自立して生きていくのは想像以上に大変という声もありますので、就業支援等も含めて、様々なニーズに合わせたサポートをしていきたいと思っています。

Q. ふるさとひょうご寄附金を活用したプロジェクトが子どもたちの未来へつながっているということですね。最後に、読者の方にメッセージをお願いします。

(兵庫県児童養護連絡協議会) 我々は、児童養護施設に入ったからといって特別な苦勞が生じないように、子どもらしく学生生活を過ごしてもらえようという思いで活動をしています。子どもたちの選択肢を広げ、夢や希望を持てるために兵庫県と連携しながら活用させていただきますので、そういった想いに共感をしてくださる方はご支援いただくとありがたいです。

ふるさとひょうご寄附金 ～被災地支援～

若者の被災地支援活動への参加を応援し、兵庫県の未来の防災人材の育成につなげたい。

兵庫県庁の被災地支援の担当者と、兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザの方々に、現在の取組や今後についてお話をいただきました。

Q. まず、現在の取組について教えてください。

現在、ふるさとひょうご寄附金を活用した取組では、「大規模災害ボランティア活動応援プロジェクト」と、「ひょうご若者被災地応援プロジェクト」の2つがあります。前者は、大規模災害が発生した時の早期復旧にかかわるボランティアを応援するもので、社会全体で災害ボランティアを支える取組としての意義があります。後者は被災者との交流やまちづくりなど復興を目指して活動する



若者ボランティアを応援するもので、本県の防災人材の育成にもつなげたいと考えています。具体的には、5人以上のボランティアグループに対して上限20万円の助成を行っており、高校生であれば部活動単位、大学生であればサークルやゼミ単位で参加してくださる方が多いです。もちろん、一般の任意団体からも多数ご参加いただいています。

Q. 災害への復旧・復興に対して、ボランティアや若者が積極的に参加できるような仕組みになっているのですね。ボランティアに関する情報はどのように発信されているのでしょうか？

兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザのホームページに詳細を掲載しています。ボランティアに参加いただくためには、興味を持ってくださった方がしっかりと情報にアクセスできる状態をつくる必要があるため、兵庫県庁とひょうごボランティアプラザが共同で情報の更新を随時行っています。



(ボランティアプラザ) 災害が発生した際は、各地域の被災状況を把握し、ボランティアのニーズ

を探ります。災害の種類や、アクセス状況、発災からの経過時間によって必要な支援や規模も異なるため、情報をわかりやすく整理して発信しています。

Q. 実際にボランティアに参加した若者の反応はいかがでしたか？

(ボランティアプラザ) 「ひょうご若者被災地応援プロジェクト」では、年に1回活動報告会を開催しており、「活動先から『来年も楽しみにしているので、また来て下さい』と言われ、自分の活動が役に立っていると実感した」、「活動を通じて自らの防災意識も高める必要があった」、「ひめふわパン(姫路と東北の高校生が共同で商品開発したもの)の開発を通じて、自ら考えて動くことの重要性を理解した」、「東日本大震災から12年が経過する中で、当時の記憶を若者がしっかりと伝承していくことが必要と感じた」など、たくさんの反応をいただきました。このプロジェクトを通じて、ボランティア参加のみならず、彼らの被災地支援に対する意識が高まっていることを感じられ、とても頼もしく思っています。



Q. まさに未来の防災人材を育成する取組ということですね。最後に、読者の方にメッセージをお願いします。

阪神・淡路大震災では、過去にないほど多くのボランティアが駆けつけ、学生や社会人などボランティア経験のない方々からもご支援いただきました。近年、自然災害が多発・激甚化する中、被災者の困りごとに向き合いながら活動を行うボランティアへの支援につながる「大規模災害ボランティア活動応援プロジェクト」、兵庫県の未来の防災人材育成につながる「ひょうご若者被災地応援プロジェクト」にお気持ちを寄せいただくと嬉しく思います。

ふるさとひょうご寄附金 ～県立学校教育環境の充実～

ふるさとひょうご寄附金を活用した県立学校独自のプロジェクトについて、
兵庫県教育委員会様と4つの高校の方々に話をいただきました

相生産業高校

【概要】生徒と地元企業が連携し、特産品を活用した商品開発を実施



【詳細】地元企業と生徒が相生市の特産品である牡蠣やゆずを活用した商品開発を行い、地域の実店舗で販売まで行う。相生市の文化継承と活性化を目指し、「ゆずみそポン!」や「ふりかき(牡蠣のふりかけ。相生市給食採用)」など開発しており、現在も新商品開発中。

【生徒の声】・自分で考えたもので地域に貢献ができて嬉しかった。
・プロジェクトを通じて達成感を感じられた。

【みなさまへのメッセージ】この取組は、相生市の高校生が地元の魅力を再発見するとともに、将来、街づくりに貢献していただくきっかけになるものと考えています。生徒たちの成長のためにも、新たな商品開発や宣伝グッズづくり(着ぐるみなど)に取り組みたいと考えており、ぜひ応援いただくと嬉しく思います。

須磨東高校

【概要】リーガルマインド養成授業と全国大会出場を目指した部活動の応援



【詳細】「物事を多面的に捉える力」を生徒に身に付けてもらうため、弁護士・検察官の講演や大学での模擬裁判体験、一人一人が卒論を作成する授業を行う。また、全国大会出場を目指す部活動を応援すべく、活動施設の改善にも取り組む。

【生徒の声】・卒論作成は大変だったが、先生にしっかりアドバイスをもらえて勉強になった。
・部活動のおかげで学生生活がとても充実した。

【みなさまへのメッセージ】当校は、「リーガルマインド類型授業」を通じて、生徒に社会に対する向き合い方を考えてもらうきっかけづくりに取り組んでいます。また、部活動支援では、全国大会を目指す生徒がさらに上を目指して活動できることを目的としています。応援のほどよろしくお願いたします。

社高校

【概要】体育科の設備改善と生活科学科の授業充実(特産品を活用した商品開発)



【詳細】体育科がある唯一の県立高校として、トレーニング設備の整備等により、体育科や運動部の環境向上に取り組む。また、「食と栄養」の専門家養成を目指した生活科学科では、全国的にも有名な料理家を招聘する特別講座や、地元ホテル等での実習教育を通じて地産地消の商品開発にも取り組む。

【生徒の声】・体育科では日中も授業で運動施設を使うので、活動しやすくなって嬉しい。
・プロから直接新しい調理技術を学べて刺激を受けた。

【みなさまへのメッセージ】当校は、体育科はもちろん全校的に部活動が盛んであり、また、生活科学科では地域と連携した実習型教育にも力を入れています。学校の発展と地域貢献の双方を目指して、生徒がよりいきいきと活動できる環境づくりを応援いただくとありがたいです。

太子高校

【概要】歌で人と人をつなぐJコーラス部の台湾公演・交流活動



【詳細】Jコーラス部では、台湾の姉妹校や現地の老人ホームでの公演活動を令和元年に初めて実施。コロナ前は国内では年に70回公演、昨年はコロナ禍でも20公演以上行った。台湾公演では姉妹校生徒と同じ曲目を練習し現地でも共同公演を予定。また、現地ではホームステイを行い、日本や太子町の文化を伝える活動も行う。

【生徒の声】・言語の不安が大きかったが、笑顔や思いやりが何より重要だと感じた。
・同じJコーラス部の仲間と一緒にだからこそ準備も頑張れたし、自信が持てた。

【みなさまへのメッセージ】この取組は、歌を通して人と人をつなぐ、まさにJコーラスの目的に資する活動です。参加前は未知の世界に不安を感じている生徒も、この活動を通じて自信をもち、地域の観光大使にまでなった卒業生もいます。日頃の活動を海外で発表するという体験は生徒にとって貴重な経験となりますので、ぜひ応援いただくと嬉しく思います。

寄附者様のお声



(80代・男性)

～子どもを中心とした次世代の支援に
つなげるとともに、すみ慣れた地域を応援したい～

これまで生活されてきた地域を含む複数の団体に遺贈寄附を決められた方に、無事に手続きを終えられた今のお気持ちを伺いました。

Q.遺贈相談窓口(レディーフォー遺贈寄付サポート窓口)にご相談をくださったきっかけは?

がんと診断されたことで、万が一にも自分が亡くなった時のことを考えました。手術前には遺言書の作成をしておきたいと思ったんです。新聞で見かけた遺贈についての記事にレディーフォーの遺贈寄附サポートが載っていたので連絡してみました。

Q.どのような団体に寄附をしたいと考えられていたのですか?

将来を担う子どもたちを中心とした次世代のために役立てたいと思っていました。それと、遺贈先は1団体というより複数に分けて遺贈寄附をしたいと考えていました。そんな中、送付いただいた資料の寄附先一覧を参考にして、がんを患った経験もあって小児がんや重い病気と闘う子どもたちを支援する団体、それと、虐待被害にあった子どもたちをサポートする団体の2団体を選びました。あと1団体をどこにするか迷っていましたが、自分自身が住む地域に寄附する選択肢もあることを教えていただきました。この町で生まれ、この町で過ごし、今もこの町で生活しています。生まれ育った地域への恩返しと応援の意味も込めて自分自身が住む県を選び、そして、次世代の支援につながるよう使ってほしいと希望しました。

Q.齋藤(レディーフォー遺贈寄付コンサルタント)との面談はいかがでしたか?

はじめはどこに寄附をして良いかも分からなかったですし、自分で調べるのも大変なので、相談しながら遺贈先を選んでよかったです。遺言書の書き方もよく分かりませんでした。専門家をご紹介いただき、手続きを進めることができました。

Q.実際に遺贈寄附先まで決定されましたが、検討前のお気持ちに変わりはありますか?

安心しています。もう、いつどうなっても構わないなと思えます。でも、手術も無事成功したし、今やすっかり元気なんです。だから、これからも財産は使っていくし、将来の財産はどれくらい残るかは分かりません。それでも、残った財産があれば寄附をすることで支援につなげることができる。それが、遺贈寄附の良いところですね。

このように、ご自身が使い切らなかった財産を寄附したいという方に、遺贈寄附はとてななじみが良い社会貢献方法です。遺言書による寄附のみならず、ご家族の相続財産からの寄附や生前寄附についてもご相談をお受けしておりますので、ご関心がおありでしたらいつでも裏表紙に記載の相談窓口へご連絡ください。